

自己点検・評価シート

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点		評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定(授与する学位ごと)及び公表	1	学位授与方針は、原則として、授与する学位ごとに設定されているか。	文学部では、日本語日本文学科と英語文化学科においては授与する学位ごとに学位授与方針を定めているが、心理・社会福祉学科については授与する2種の学位に対して1つの方針しか立てられていない。文学研究科では、授与する学位(専攻・課程)ごとに学位授与方針を定めている。	心理・社会福祉学科では令和3年度前期中に方針を再策定し、9月の文学部教授会において決定する予定。	令和4年4月1日
			2	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学習成果が明確に示され、授与する学位にふさわしい内容となっているか。	文学部では、学科ごとに、修得すべき「知識・理解」「技能・表現」「思考・判断」「態度・志向性」を定めており、それらは授与する学位に相応しい内容となっている。 文学研究科では、それぞれの専攻において修得すべき知識・技能等について「知識・理解」「技能・表現」「思考・判断」「態度・志向性」の4項目に分けたうえで具体的に到達内容と水準を示している。		
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定(授与する学位ごと)及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連携性	5	教育課程の編成・実施方針は、原則として、授与する学位ごとに設定されているか。	文学部では、学位授与方針に基づき、授与する学位ごとに教育課程編成・実施方針を設定している。ただし、心理・社会福祉学科では「心理学」と「社会福祉学」2種の学位を授与しており、それをカリキュラムツリーにおいて書き分けてはいるものの、教育課程編成方針では一体として表現しているため改善が必要である。 文学研究科では、学位授与方針に基づき、授与する学位(専攻)ごとに教育課程の編成・実施方法を定めている。	心理・社会福祉学科では令和3年度前期中に教育課程編成方針につき再検討し、学位ごとの方針を策定する。9月の文学部教授会の議を経て決定する予定。	令和4年4月1日
			6	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方が明確に示されているか。	文学部では、学科ごとの「教育課程の編成・実施方針」において教育課程の体系性を明示するとともに、それぞれの授業科目区分を通して学習者が身につける知識・技能等についても明確に示している。教育科目の体系性および授業科目相互の関連性はカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップにわかりやすく表現している。 文学研究科では、専攻ごとの「教育課程の編成・実施方針」において、教育内容ならびに教育課程の体系性を明示している。		
			7	上記の方針は、学位授与方針に整合しているか。	文学部各学科における教育課程の編成・実施方針と学位授与方針とはおおむね整合している。ただし、カリキュラムツリーの上で学位授与方針に対応する授業科目の配置に若干の粗密があり、改善の必要がある。 文学研究科における教育課程の編成・実施方針と学位授与方針とは整合しており、矛盾を生じてはいない。	英語文化学科および心理・社会福祉学科ではカリキュラムマップの見直しを令和3年度前期中に行う。	令和4年4月1日

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点	評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置 ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ(必修、選択等) ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定 ・初年次教育、高大接続への配慮(【学士】) ・教養教育と専門教育の適切な配置(【学士】) ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等(【修士】【博士】) ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり ○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施 	<p>10</p> <p>全学的に見て、学部・研究科の教育課程は、どのように編成されているか。 ※ その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・当該学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時の学習成果と、各授業科目との関係の明確性 ・専門分野の学問の体系を考慮した教育課程編成 ・学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当 	<p>文学部各学科は、それぞれ教育課程の編成・実施方針に則って授業科目を配置し、体系的なカリキュラムを構築している。いずれの学科も開設科目を「基礎教育科目」と「専門教育科目」に二分し、前者には「初期演習」のほか情報リテラシー科目、言語科目および各学科の学修の基礎・前提となる授業科目を配当し、後者にはそれぞれの学科の専門学問領域を正しく反映させた授業科目を体系的かつ順次的に配置している。順次性については各学科ともカリキュラムツリーを作成してわかりやすく示すとともに、すべての授業科目にナンバリングを施して、科目ごとにその目的と到達目標を示している。</p> <p>文学研究科では、教育課程の編成・実施方針に則って授業科目を配置し、体系的なカリキュラムを構築している。必修科目、選択必修科目、および選択科目のバランスに配慮し、コースワークとリサーチワークを併置して、学問領域ごとの現在の研究水準へ学習者を導くための教育課程を構成している。</p>		
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<ul style="list-style-type: none"> ○各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置 ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等) ・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等) ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 ・適切な履修指導の実施 ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数(【学士】) ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施(【修士】【博士】) ・各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり 	<p>12</p> <p>全学的に見て、学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置として、どのような方法が取られているか。 ※ その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成・実施方針と教育方法の整合性 ・当該学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果に応じた授業形態、授業方法の採用とその実施 ・1授業あたりの適切な学生数の設定と運用 ・単位の実質化(単位制度の趣旨に沿った学習時間、学習内容の確保)を図る措置 ・シラバスの作成と活用 ・履修指導 	<p>文学部が開講するすべての授業科目につきシラバスにおいて「科目目的」「到達目標」「授業内容、計画」を詳細に記述し、「準備学習」欄には事前事後学習の内容と分量を具体的に記載している。Googleclassroomの活用により、授業時間外の学習時間の確保が実現されてきている。日常の学習態度や資格取得、成績状況、将来の進路等に関してクラス担任がきめ細かく指導するとともに個々の学生の学習状況を把握し、学生の学習の活性化を図っている。各学科では、根幹となる授業科目についてできるだけ少人数クラス編成を心がけ、アクティブラーニングを積極的に推進することで学生の学力向上を図っている。英語文化学科および心理・社会福祉学科では習熟度別クラスを設け、学習意欲を高めることに努めている。</p> <p>文学研究科にあってもシラバスを活用して学生の授業外学習の内容・分量を具体的に示している。「大学院学生会活動支援制度」を積極的に活用し、大学院生の自主的な学習研究活動を支援している。専攻ごとに研究発表会を開催し、研究機関誌を発行するなど、活性化に努めている。</p>		

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点		評価者の観点	現状説明	改善方針 (予定含む)	改善時期
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位等の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり <p>○学位授与を適切に行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 	14	<p>全学的に見て、学部・研究科における成績評価、単位認定及び学位授与は、どのように行われているか。</p> <p>※その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳正かつ適正な成績評価及び単位認定の実施 ・既修得単位等の適切な認定 ・学位授与における実施手続及び体制の明確性 	<p>文学部では「武庫川女子大学学則」および「武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部の成績評価に関する規程」の定めるところに従い、適正な成績評価、単位認定ならびに学位授与を行っている。</p> <p>文学研究科では、武庫川女子大学大学院学則に従い、適正な成績評価、単位認定ならびに学位授与を行っている。「履修便覧」には専攻ごとに「学位授与の手引き」を作成・掲載し、学位審査要件・審査手順・審査項目を具体的に示している。学位論文の審査にあたっては厳正な審査を経て判定し、研究科委員会の審議を経て認定している。</p>		
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	<p>○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定(特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)</p> <p>○学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発</p> <p>≪学習成果の測定方法例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 <p>○学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わり</p>	16	<p>全学的に見て、学位授与方針に示した学生の学習成果は、どのような方法で測定されているか。</p> <p>※その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野の性質、学生に求める学習成果の内容に応じた把握・評価の方法や指標の導入と運用 ・当該職業を担うのに必要な能力の修得状況の把握(特に専門的な職業との関連性が強い教育課程の場合) 	<p>学位授与方針に示した学習成果は、それぞれの授業科目の成績評価として測定されるほか、各学科の教育目標に即応するとして設定している各種資格・免許の取得状況、国家試験、教員採用試験等も含め把握されている。すべての学科で卒業論文あるいは卒業制作を課しており、その成果はもとより、制作過程あるいは卒論発表会・審査会を通してそれぞれの学習成果が測定されている。卒論の評価については学科ごとに評価基準を設けて公正な評価に努めている。</p> <p>英語文化学科では学修カードシステムを導入して学生の4年間の学習成果および学力の推移を可視化している。他の学科でも同様のシステムの導入を検討しているところである。</p> <p>文学研究科では、学位論文制作の過程および成果をもって学習成果を測定している。修士論文および博士論文の作成過程で開催する発表会もまた学習成果を測定する機会となっている。臨床心理学専攻にあつては公認心理師および臨床心理士国家試験の合格結果が学習成果測定の指標のひとつになる。</p>		

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点	評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	18 教育課程及びその内容、方法の自己点検・評価は、どのように行われているか(基準、体制、方法、プロセス等)。	文学部では、それぞれの学科会議において、年度ごとに教育課程及びその内容、方法に関して点検を行い、改善を図っている。その根拠には、学生の成績状況、履修登録者数、資格取得者の数、授業アンケートの回答、幹事懇談会における学生の要望などがあり、各学科の授業科目のすべてのシラバスを学年度末に学科長と幹事教授が点検し、授業内容・方法・成績評価方法その他について改善点があるときには指摘修正を求めている。 文学研究科では、それぞれの専攻会議において、年度ごとに教育課程及びその内容、方法に関して点検を行っている。また、大学院教育全体に渡る事項については専攻長会議において議論・検討され、課題となった事項について専攻ごとに改善を図っている。		
			19 上記の自己点検・評価結果に基づき、教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みは、どのように行われているか。	文学部各学科は、学科内に教育課程検討のための委員会を設置し、年度ごとの日常的な点検に加えて数年単位で教育課程の見直しを図り、カリキュラムのスリム化や授業規模の適正化、あるいは資格の設置・廃止などについて検討している。 文学研究科では、専攻会議において教育の内容・方法につき、年度ごとに改善を図るとともに、学生の実態に即した教育課程の改訂について中長期的に検討を行っている。		
			20 上記において、学習成果の測定結果は、教育課程及びその内容、方法の改善にどのように活用されているか。	学習成果を複眼的に検証したうえで、教育課程及びその内容・方法の改善に活かすよう心がけている。		